

令和6年度 川崎市病院事業会計決算（見込）の概況

○ 決算見込みのポイント

◎病院事業全体（市立3病院計）の経常損益は、診療収益が増加した一方で、人件費の上昇や物価の高騰などに伴い費用が大幅に増加したことにより、32億9,518万円の経常損失となりました。また、病院事業全体の純損益は、31億1,422万円の純損失となりました。

市立3病院の経営成績（税抜き）

（単位：円）

科 目	川崎病院	井田病院	多摩病院※	病院事業合計
総収益	24,820,797,846	10,326,891,516	2,181,174,275	37,328,863,637
医業収益	22,054,903,525	8,271,663,835	1,103,954,291	31,430,521,651
医業外収益	2,722,207,220	1,987,684,621	705,179,382	5,415,071,223
特別利益	43,687,101	67,543,060	372,040,602	483,270,763
総費用	26,897,346,595	12,169,601,905	1,376,133,118	40,443,081,618
医業費用	25,384,159,886	11,578,146,520	1,139,540,148	38,101,846,554
医業外費用	1,251,359,046	565,128,921	222,439,787	2,038,927,754
特別損失	261,827,663	23,326,464	14,153,183	302,307,310
経常損益	△ 1,858,408,187	△ 1,883,926,985	447,153,738	△ 3,295,181,434
純損益	△ 2,076,548,749	△ 1,842,710,389	805,041,157	△ 3,114,217,981

※多摩病院は利用料金制を適用しているため、多摩病院の診療収益等は市病院事業会計の決算に含まれておりません。

○ 患者状況・診療収益状況

◎川崎病院では、外来患者延人数は減少しましたが、入院患者延人数の増加や診療単価の上昇により、入院、外来ともに収益が増加しました。

◎井田病院では、外来患者延人数が減少したことにより外来収益は減少しましたが、入院患者延人数の増加や診療単価の上昇により、入院収益は増加しました。

◎多摩病院では、入院、外来ともに患者延人数及び収益が増加しました。

	入院患者延人数	外来患者延人数
川崎病院	175,617人（+5,527人）	294,384人（△5,976人）
井田病院	102,968人（+5,639人）	128,324人（△11,660人）
多摩病院	108,790人（+8,767人）	212,605人（+14,474人）

	入院患者実人数	1人平均入院日数
川崎病院	14,243人（+270人）	12.3日（+0.1日）
井田病院	6,116人（+231人）	16.8日（+0.3日）
多摩病院	9,447人（+815人）	11.5日（△0.1日）

	入院収益（税抜き）	外来収益（税抜き）
川崎病院	142億2,099万円（+6億517万円）	63億9,238万円（+2億2,463万円）
井田病院	53億3,980万円（+3億9,893万円）	23億9,772万円（△2億4,657万円）
多摩病院	71億9,901万円（+6億2,499万円）	32億898万円（+2億2,559万円）

※（ ）は前年度比較

○ 業務状況

市立3病院では、市の基幹病院又は地域の中核病院として、公共の福祉の増進と経済性の発揮を基本としながら、高度・特殊・急性期医療や救急医療等を継続的かつ安定的に提供しています。また、「川崎市立病院中期経営計画 2024-2027」に基づき、公立病院として地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供し、更なる経営改革と経営健全化を図りながら、災害、研修教育等の対応を含めた医療行政施策を推進し、地域医療機関との連携を進めるなど、本市の医療水準の向上に寄与できるよう取り組んでいます。

人口減少や少子高齢化の急速な進展により、持続可能な地域医療提供体制を確保することが地域において一層重要な課題となっている一方、病院の経営は、収入の根幹である診療報酬が物価高騰や人件費上昇に見合ったものになっていない中でも、コロナ禍後の社会変容による医療需要の変化、医療提供主体の病院から地域診療所や在宅への移行という受療動向の変化、医療の高度化といった病院経営に係る環境の急激な変化等への対応が求められるなど、非常に厳しい状況にあります。また、医師の働き方改革や、医療従事者の確保、情報セキュリティの強化等、様々な課題への対応も求められています。

(川崎病院)

川崎病院においては、高度・特殊・急性期医療、救命救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等への医療や、精神科救急医療などを提供しています。また、増加する救急搬送やがん等の医療需要に対する医療機能の拡充や防災機能の強化等を目的とする川崎病院医療機能再編整備については、令和5年11月に着手した救命救急センター棟の新築工事を引き続き進めているところです。

(井田病院)

井田病院においては、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、結核医療、緩和ケア医療等を提供しているほか、災害拠点病院としての役割を担っています。また、在宅療養後方支援病院として、地域の在宅医をサポートする取組を進めるとともに、地域医療支援病院として、地域医療連携の取組を進めています。

(多摩病院)

多摩病院においては、小児救急を含めた救急医療を中心に、高度・特殊・急性期医療、アレルギー疾患医療等の一般診療を提供しているほか、災害拠点病院としての役割を担っています。また、地域医療支援病院として引き続き地域の医療機関との連携に努めるなど、北部地域の中核病院としての役割を果たしています。なお、本病院は指定管理者制度を採用し、学校法人聖マリアンナ医科大学が運営管理を行っています。

○ 主な建設改良

◎川崎病院では、救命救急センター棟新築工事のほか、照明設備改修工事等を実施しました。井田病院では、ナースコール設備改修工事を実施しました。

◎医療器械については、川崎病院と井田病院で、内視鏡下手術支援ロボット装置の更新等を行いました。

【問合せ先】 川崎市 病院局 経営企画室 経理担当 佐藤
電話 044-200-3855

令和6年度 川崎市病院事業会計決算総括表

(収益的収支)

(単位 : 円、%)

会 計 名		収 入	支 出	差 引	税抜処理後純損益	前年度繰越損益	その他未処分利益 剰余金変動額	当年度未処理損益
病院事業会計	予 算 現 額	39,423,825,000	41,712,621,000	△ 2,288,796,000	—	—	—	—
	決 算 額	37,486,412,296	40,562,643,718	△ 3,076,231,422	△ 3,114,217,981	△ 16,330,684,273	—	△ 19,444,902,254
	執 行 率	95.1	97.2	—	—	—	—	—

(資本的収支)

(単位 : 円、%)

会 計 名		収 入	支 出	差 引	補 填 財 源 等				再 差 引	備 考
					繰越工事資金	損益勘定 留保資金	前 年 度 財源充当額	そ の 他		
病院事業会計	予 算 現 額	7,462,708,000	10,237,309,700	△ 2,774,601,700	—	2,749,895,700	—	24,706,000	—	
	決 算 額	4,178,814,666	6,920,757,556	△ 2,741,942,890	△ 166,300,000	2,466,778,184	262,320,000	179,144,706	—	
	執 行 率	56.0	67.6	—	—	—	—	—	—	

令和6年度 病院事業会計決算（見込）のポイント （税抜き）

<病院事業全体>

			令和6年度決算 (見込)	令和5年度決算	増 減額	増 減率	備 考
1 収益の収入			373億2,900万円	362億 600万円	11億2,300万円	3.1%	
主な 収入	入院収益		195億6,100万円	185億5,700万円	10億 400万円	5.4%	患者延人数の増加による川崎病院及び井田病院の増
	外来収益		87億9,000万円	88億1,200万円	△2,200万円	△0.2%	患者延人数の減少による井田病院の減
	他会計繰入金		59億4,600万円	58億2,700万円	1億1,900万円	2.0%	一般会計繰入金の増
2 収益の支出			404億4,300万円	369億9,800万円	34億4,500万円	9.3%	
主な 支出	給与費		187億3,100万円	166億2,900万円	21億 200万円	12.6%	給与改定、職員数増などに伴う給料・手当等の増、退職給付費の増
	材料費		84億7,500万円	79億5,500万円	5億2,000万円	6.5%	診療材料費、薬品費等の増
	経 費		78億3,500万円	74億 600万円	4億2,900万円	5.8%	委託料、修繕費、交付金等の増
3 経常損益			△32億9,500万円	△12億 800万円	△20億8,700万円	△172.8%	
内訳	川崎病院		△18億5,800万円	△400万円	△18億5,400万円	△46,350.0%	
	井田病院		△18億8,400万円	△15億8,700万円	△2億9,700万円	△18.7%	
	多摩病院		4億4,700万円	3億8,300万円	6,400万円	16.7%	
4 純損益			△31億1,400万円	△7億9,200万円	△23億2,200万円	△293.2%	
内訳	川崎病院		△20億7,700万円	△7,800万円	△19億9,900万円	△2,562.8%	
	井田病院		△18億4,200万円	△14億6,000万円	△3億8,200万円	△26.2%	
	多摩病院		8億 500万円	7億4,600万円	5,900万円	7.9%	

（注）増△減率が正の場合、収支は改善している。負の場合、収支は悪化している。

5 資金不足比率	— (資金不足となっていない)	— (資金不足となっていない)			参考：財政健全化法における経営健全化基準 20%
----------	--------------------	--------------------	--	--	--------------------------

※ 金額については百万円未満を四捨五入（一部、端数調整有り）

※ 増減率については小数点第2位を四捨五入